

学 会 記 事

○特定非営利活動法人日本火山学会 平成 21 年度臨時総会議事録

議事録署名人 萬年一剛 印

1. 日 時: 平成 21 年 10 月 11 日 (日)
午後 4 時 00 分～4 時 20 分
2. 場 所: 神奈川県立生命の星・地球博物館
ミュージアムシアター
3. 出席者: 維持会員 49 名, 有効委任状 80 通
合計 129 名
4. 審議事項
 1. 平成 21 年度事業経過報告の件
 2. 地球惑星連合の動向について
 3. 火山学会ロゴマークについて
 4. その他
 5. 議事録署名人承認の件
5. 議事の経過の概要及び議決の結果

出席者(委任状を含む)が 129 名で, 定足数 86 名をこえていることを確認し, 議長が平成 21 年度臨時総会の開会を宣言した.

- (1) 第一号議案 平成 21 年度事業経過報告の件
今年度の事業経過について森田理事がまとめて報告(資料 1)し, 事業経過報告を議長が諮り, 全員異議なくこれを了承した.
- (2) 第二号議案 地球惑星連合の動向について
説明資料(資料 2)にもとづいて森田理事より報告があり, 全員異議なくこれを了承した.
- (3) 第三号議案 火山学会ロゴマークについて
説明資料(資料 3)にもとづいて萬年事業委員(伊藤理事代理)より報告があり, 全員異議なくこれを了承した.
- (4) 第四号議案 その他
議長より説明(資料 4)があり, 全員異議なくこれを了承した.
- (5) 第五号議案 議事録署名人承認の件
議長より本日の議事をまとめるに当たり, 議事録署名人 2 名を選出することを諮り, 宝田晋治氏及び萬年一剛氏を選任することを全員異議なく承認した.

以上, この議事録が正確であることを証します.
平成 21 年 10 月 11 日

議 長 石原和弘 印
議事録署名人 宝田晋治 印

(資料 1) 平成 20 年度事業報告

(1) 庶務委員会(森田)

1. 現在の会員数

	維持 会員	学術 会員	一般 会員	団体 会員	名誉 会員
2009 年連合大会 総会後	258	688	34	13	7
入会	2	35	1	0	0
退会	1	5	0	0	0
除名	2	13	1	0	0
2009 年秋季大会 総会後	258	710	34	13	7

2. 主催, 共催, 協賛, 後援 4 件

- ・「火山工学・斜面工学講習会」→主催: (社)土木学会
地盤工学委員会
- ・第 35 回リモートセンシングシンポジウム 協賛→
主催: (社)計測自動制御学会
- ・第 21 回研究成果発表会 協賛 主催: 海洋調査技術学会
- ・日本地熱学会平成 21 年学術講演会 協賛 主催:
日本地熱学会
- ・火山災害の軽減に関する国際ワークショップ 2009
後援 主催: 防災科学技術研究所/山梨県環境科学
研究所

(2) 編集委員会(西村, 代理森田)

1. 「火山」発刊状況

【54-3 号】 6 月 30 日発行

【54-4 号】 8 月 31 日発行

2. 「火山」掲載予定原稿

【54-5 号】 8 月 31 日発行

論説 No. 0819 三村弘二・巖谷敏光

九州尾鈴山火山深成複合岩体のカルデラ内岩
屑なだれ堆積物

論説 No. 0820 内田 東・佐藤孝久・山下隆丞・
寺田暁彦

噴気地における地表面温度と放熱率の経験的
関係

—赤外カメラと水箱熱流計測による同時観測

実験一

論説 No. 0905 代田寧・棚田俊收・丹保俊哉・伊東博・原田昌武・萬年一剛
2001年箱根群発地震活動に伴った傾斜変動と圧力源の時間変化

3. 査読編集状況

【現在査読編集集中の通常論文原稿】

・計 13 編 論説 12 編
総説 0 編
寄書 1 編

(3) 事業委員会 (伊藤, 代理森田)

1. 行事関連

- ・第 10 回夏休み地震・火山子どもサマースクール「歴史都市、萩をさぐる火山のひみつ」が以下の日程で開催された。日本火山学会は 25 万円援助した。
日時: 平成 21 年 8 月 8~9 日
活動場所: サンライフ萩, 田床山, 萩博物館, 笠山火口, 笠山海岸, 笠山風穴, 萩ガラス工房
主催: 日本地震学会・日本火山学会
後援・協賛: 内閣府, 総務省消防庁, 文部科学省, 国土交通省, 気象庁, 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター, 山口県, 山口県教育委員会
参加者: 37 名 (小 5~高校生)
地震・火山子どもサマースクール事業収支表

収入		支出	
地震学会事業費	400,000	宿泊費	581,179
火山学会事業費	250,000	バスチャーター代	54,408
参加費		消耗品	43,053
(¥3000/1人)	111,000	弁当・飲み物代	56,860
		保険	25,500
合計	761,000	合計	761,000

- ・第 11 回夏休み地震・火山子どもサマースクール
日時・場所ともに未定, 高知県室戸崎付近で南海地震をテーマとして調整中, 例年通り火山学会から 20 万円の援助が求められている。
- (4) 大会委員会 (松島, 代理森田)
 - ・2010 年度秋季大会
開催地: 京都大学吉田キャンパス
日程: 2010 年 10 月 9 日 (土)~10 月 11 日 (祝)
 - ・2011 年度秋季大会開催候補地募集している。
参考: 1994 年以降の開催地 (LOC)
1994 年福岡市 (大学: 九州大学), 1995 年新潟市 (大学: 新潟大学), 1996 年伊豆大島 (公民館: 東京大学), 1997 年長野市 (大学: 信州大学), 1998 年山形

市 (大学: 山形大学), 1999 年神戸市 (大学: 神戸大学), 2000 年水戸市 (大学: 茨城大学), 2001 年鹿児島市 (大学: 鹿児島大学), 2002 年仙台市 (ホテル: 東北大学), 2003 年福岡市 (大学: 九州大学), 2004 年静岡市 (防災センター: 静岡大学), 2005 年札幌市 (大学: 北海道大学), 2006 年阿蘇町 (ホテル: 京都大学), 2007 年島原市 (市民体育館: 九州大学), 2008 年盛岡市 (岩手大学・秋田大学), 2009 年小田原市 (生命の星・地球博物館, 温泉地学研究所)

(資料 2) 日本地球惑星科学連合法人関係の報告

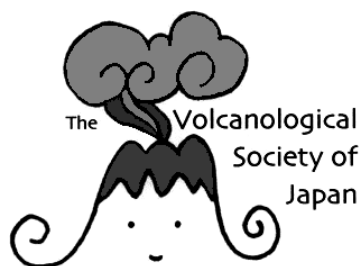
8 月 17 日 (月)~9 月 17 日 (木) 代議員立候補受付
10 月 1 日 (木)~30 日 (金)
代議員選挙投票 火山学会から候補者あり。
11 月 9 日 (月)~20 日 (月)
セクションプレジデント候補受付
11 月 30 日 (月)~12 月 21 日 (月)
セクションプレジデント投票
2010 年 4 月 1 日 (水)
代議員任期開始 (通常年, 任期 2 年間)

(資料 3) 火山学会ロゴマーク

(1) 選定経過

- ・平成 20 年度総会 (2008 年 5 月 27 日) において, 当会の存在や活動に関する一般市民の認知を向上させるためにロゴマーク作成を決定。
- ・2008 年 10 月 30 日から web 上でロゴマークの公募告知を行い, 12 月 1 日よりデザインの受付をインターネット・郵便で開始。2009 年 2 月末の締め切り, 689 件 (郵送: 360 件, web: 329 件) の応募。なお, 学会員からの応募は 2 件。
- ・2009 年 4 月 4 日, 学会事務局において事業委員によるデザインの選定が行われ, 3 作品を最終候補とした。また, これらの作品を, 今年の定例総会 (5 月 18 日) で入選作品として紹介。
- ・入選作品の中から 8 月 7 日~9 月 1 日の間, インターネットによる会員の投票を行った。その結果, 作品番号 1: 22 票, 作品番号 2: 189 票, 作品番号 3: 28 票で, 作品番号 2 が最優秀賞として選ばれた。
- (2) 最優秀賞, 優秀賞, 事業委員長特別賞
 - ・最優秀賞は以下のとおり。作者は齊藤徹也氏。総会





終了後、斉藤氏に正賞: 賞状, 副賞: 萩玄武岩ガラス花瓶が会長より贈呈された。

- 最終選考に残った2作品には優秀賞が授与された。作者は、町田知博氏とアンキョン氏。正賞: 賞状, 副賞: 萩玄武岩ガラスグラスが授与された。
- 事業委員長特別賞として以下の作品が選ばれた。作者は鈴木栄史氏。

(3) シンボルマークの利用に関する報告

- 最優秀賞受賞者と会長との間で、著作権譲渡等に関する書類を取り交わす。
- 今後、シンボルマーク普及のための事業を進める。クリアフォルダーの作成と会員への配布、レターセット・新学会封筒の作成などを検討中。
- シンボルマークの利用規程を整備する。
- シンボルマーク制定記念として、マグカップを限定90個、今回だけの特別価格: 500円にて、秋季大会の懇親会場、10月12日の学会受付で販売した。
- 懇親会での行事のため、数個のマグカップを寄付した。

(資料4) その他

(1) 理事選挙について

今期の理事の任期は平成22年6月30日までである。理事選挙を平成22年1月公示予定している。選挙管理委員会の設立することとなり了承された。そして、小川康雄氏を選挙管理委員長に推薦し承認された。他の選挙管理委員(1~2名)は委員長に一任することになった。

(2) 山口県の顕彰について

永尾隆志(山口大)会員等の奔走により、山口県が火山堆積物の良く見える露頭の整備保存を決定した。火山学会から山口県へ感謝状を出すことにした。具体的なことは永尾会員と相談して進める。

(3) 質疑応答

秋季大会の開催時期、発表方法について以下の質問があり、松島大会委員長より以下の回答があった。

質問1: 来年度も秋季大会を10月の3連休で行う理由はあるか?

回答1: 必ずしも連休にこだわっていないが、LOCによる会場の確保の問題から連休中の開催となった。

質問2: 平成21年度秋季大会にてプロジェクタとパソコンの接続のトラブルがあった。学会にてパソコンを用意して、講演者には事前にファイルをパソコンに入れてもらうようにするのはどうか?

回答2: 検討する。

以上

日本火山学会 2009 年度秋季大会報告

日本火山学会 2009 年秋季大会は、神奈川県小田原市の神奈川県立生命の星・地球博物館で同館と神奈川県温泉地学研究所の共催により、10月10~12日の日程で実施された。その概要を以下に、おおむね時系列でまとめた。

1. 公開火山防災シンポジウム

大会前日の10月9日の13:30~17:30に、日本火山学会公開火山防災シンポジウム「あすの火山防災を考える」が神奈川県立生命の星・地球博物館において開催された(写真1)。シンポジウムは、藤田英輔(防災科学技術研究所)、中村洋一(宇都宮大学)両会員をコンビナーとしてすすめられた。第一部は「箱根火山防災はどう変わった—噴火警戒レベル導入を通して—」と題し、箱根火山の活動史と構造を萬年一剛(県温泉地学研究所)、最近の活動を棚田俊收(県温泉地学研究所)、箱根火山の噴

火警戒レベルを石垣祐三(横浜地方気象台 火山防災官)、箱根町の防災対策を勝俣 敏(箱根町 防災対策課長)、神奈川県の火山対策を杉原英和(県温泉地学研究所)の各氏が講演をおこなって、質疑応答をうけつつすすめられた。第二部は「大規模噴火時における広域火山防災のあり方」と題し、前半では北海道駒ヶ岳の歴史噴火と防災対策を吉本充宏(北海道大学)氏、桜島火山での緊急時の火山情報を石原和弘(京都大学・日本火山学会会長)氏がそれぞれ講演を行った。後半では荒牧重雄(東京大学名誉教授)氏から巨大火山噴火と防災ストラテジーについての講演があって、この後に斎藤 誠(気象庁火山対策官)、本橋伸夫(内閣府参事官補佐、大塚弘美企画官の欠席のため)、杉原英和、荒牧重雄、石原和弘、吉本充宏の各氏によるパネルディスカッションが行



写真 1. 火山防災シンポジウムの様子 (A 会場: 神奈川県立生命の星・地球博物館ミュージアムシアター)

われ、噴火警戒レベルのレベル 4-5 のような大規模噴火での防災対策のあり方について、会場出席者も含めての議論が活発にすすめられた。予定された時間では議論が十分に尽くしきれなかったため、このテーマでの今後のディスカッションの場が期待された。参加者は 200 名余と盛況で、予め用意したシンポジウム講演予稿集が不足した。このため、この講演予稿集の PDF 版を日本火山学会の HP で公開することとした。

2. 学術講演会

a. 概要

学術講演会は 10 日から 12 日午前中まで実施され、99 件の口頭発表と 68 件のポスター発表 (2 件は発表取消) が行われた (写真 2)。参加者数は 293 名 (会員 204 名、学生会員 57 名、非会員 32 名) であった。今回は、博物館での開催であることから、来館者の学術講演会の見学は自由であった。しかし、正式参加者がつける名札の有無から判断する限り、学術講演を聴きに来た一般来館者はあまり多くなく、数名程度であったと思われる。

b. 研究奨励賞受賞者講演会

10 日の口頭発表終了後は、今回初めての企画として、研究奨励賞受賞者による、講演会が実施された。相澤広記、寺田暁彦両氏による講演は 20 分弱という短い時間の中に、両氏の研究の概要と研究を始めた動機、今後の抱負などがコンパクトにまとめられており、いずれも聴衆にさわやかな感動を与えるすばらしいものであった。本講演会の最中に、博物館が閉館時刻となり、会場外にいる人は退館させられるため、学会に参加した会員のほとんどがこの講演会を聴講することになった。このため、講演をされた両氏は多大なプレッシャーとなったと話されていたが、いずれも盛大な拍手を集める大成功の講演であった。この講演会は、優秀な若手の存在を広く知らしめるとともに、年代的に近い学生や院生を勇気づける



写真 2. ポスター会場の様子 (神奈川県立生命の星・地球博物館エントランスホール)

効果が大きく、今後とも実施するべきだとの声が数多く聞かれた。

c. 臨時総会・懇親会

11 日の臨時総会では、日本火山学会のシンボルマーク投票結果が発表され、新しいシンボルマークが決まるとともに、同作をデザインした斉藤徹也氏 (東京都・非会員) に石原会長から賞状と副賞が手渡された。

臨時総会後は、会場のある入生田の隣の地区である風祭にある「小田原鈴廣・鈴の音ホール」にて懇親会が行われた。懇親会は、会員が開始予定時間よりも早く集まったため、時間を繰り上げて温泉地学研究所の吉田明夫所長と当会の石原和弘会長の挨拶が行われ、杉村新会員によるスピーチと、横山泉名誉会員による乾杯のご発声により定刻の開会となった (写真 3)。途中、新しいシンボルマークをプリントしたマグカップがお披露目されるとともに、ビンゴ大会が行われ、上位 10 名に贈呈された。なお、マグカップは懇親会会場と翌日の学会受付で、制定記念価格 500 円で販売されたが、一人で数個買い求める会員もあり、大会期間中に作成した 100 個をほぼ売り切った。懇親会はその後、次期開催地である京都大学の金子克哉氏による挨拶と、同氏へ「大会開催の秘伝の書」引き継ぎが行われ、ホストである神奈川県立生命の星・地球博物館の斎藤靖二館長による挨拶でお開きとなった。

d. 団体展示・招待展示

今大会の 1 日目と 2 日目には、例年通り企業等団体による展示を実施したほか、関連団体や全国的に活動している地学系の団体および地元の地学愛好者の団体を招待して、ポスター展示を実施して頂いた。この新しい試みは招待展示と銘打たれ、日本火山の会、三浦半島活断層調査会、地震火山こどもサマースクール、温泉地学研究



写真 3. 横山名誉会員，杉村新会員による乾杯

所，日本ジオパークネットワークの5団体がポスター展示を行った。

団体展示の出展者からは、「みえるお客さんのタイプが違い，人数も多い」，「一般の方が多いのであれば，それ相当の用意をすれば良かった」という感想を頂いた。これらの感想は，例年のような休み中の大学での開催と異なり，博物館での開催ということから学会員以外の一般来館者が足を運んだことが反映されている。また，例年はあった大会3日目の会場設営が無かった点について，「毎年3日目は閑古鳥なので却って今年の方が良いという」意見を頂いた。

一方，招待展示の参加者からは，展示場所が目付きにくくアピールの場としては多少不満であったという声が聞かれた。招待展示，団体展示ともに講演会場から離れた場所での設営であったが，招待展示に出展した団体は普段多くの人にアピールするような場での発表が多いため，期待していたよりも来場者が少なかったという感想につながったものと思われる。今後継続して実施する場合は，ポスター会場に隣接させるなどの工夫が必要と思われる。

e. 記念講演会

12日は午前中に学術講演会が開催された後，A会場で当会と神奈川県立生命の星・地球博物館，温泉地学研究所の共催により「日本火山学会秋季大会開催記念講演会・火山と私たちの暮らし」が開催され，一般来館者および学会参加者83名が，火山噴火のメカニズム（寅丸敦志会員），噴火や火山体の形成を再現する室内実験（笠間友博会員），箱根火山研究の最前線（高橋正樹・萬年一剛会員）などの講演に耳を傾けた。講演の最後には会場から活発な質問があり，予定時間を15分ほど超過した。

f. 課題

今回の学術講演会で問題であったのは，会場が用意したプロジェクターと発表者が持参するPCの相性が悪い

ことが目立ったことである。プロジェクターとPCとの接続が完全にできない最悪の事例はなかったが，投影画面の端に切れが生じるなどの問題が特に目立った。現地実行委員会のテストでは再現できない事象であり対策に苦慮した。原因は，最近のノートPCにワイド型画面を登載するものが多くなり，PC側に旧来型のアスペクト比で外部出力するための設定がなされてないためであると見られる。臨時総会では，投影に使うPCは，発表者各人ではなく学会側で用意するべきではないかという意見が出された。

3. 野外討論会

今大会では，野外討論会が箱根火山（Aコース）と三宅島火山（Bコース）の2コースが用意された。どちらかに参加者が集中する，または参加者が分散するなどの事態もはじめには懸念されたが，蓋を開けてみるとAコースは満員でキャンセル待ち状態，Bコースも催行人数に達し，大盛況となった。

a. 箱根火山

Aコースは，萬年一剛，高橋正樹，小林淳会員がリーダーとなり，12日午後4時に県立博物館地下駐車場を出発し，大観山展望台で，箱根火山の全体像について議論。13日は基盤岩類の西縁を画する断層露頭（宮城野），早川凝灰角礫岩の露頭（堂ヶ島），前期中央火口丘とその下の真鶴軽石相当層（猿沢），基盤岩と外輪山溶岩類の接触部分（堀木沢），基盤岩類を貫く外輪山溶岩類（須雲川）とめぐったあと，宿の部屋で夜遅くまで議論が続けられた。14日は長尾峠から神山の崩壊による地形を遠望した後，長尾峠の下の外輪山露頭で議論，大涌谷から神山登山道を登りテフラの観察（写真4），芦之湯で東京軽石から上位のテフラ群を観察したあと午後3時30分に小田原駅新幹線口で解散した。このコースは，箱根火山の基盤から最新の噴火までを一気に見て回ることを意図したものであったが，23名の参加者からは「暖かい雰囲気での巡検であった」，「箱根火山を効率よくめぐることが出来て勉強になった」などの声がメールでリーダーに寄せられた。

b. 三宅島火山

三宅島巡検は，10月12～14日の日程で，6名の案内者・世話人（津久井雅志，川邊慎久，笹井洋一，新堀賢志，千葉達朗，前野 深）と近畿日本ツーリストの添乗員1名を含む総勢39名により行われた。12日夜に「さるびあ丸」で竹芝桟橋を出発した一行は，翌13日早朝に三宅島錨が浜港に到着した。午前中にはまず七島展望台と村宮牧場付近で2000年噴火のテフラ（主に8月19日および28日噴火の堆積物）やインパクトクレーター，最近の火山ガスにより腐食した電柱・道路・車，そして大



写真 4. 野外討論会 A コースでの議論の様子 (神山登山道)

量の枯死した樹木が山体斜面に広がる様子を観察した。展望台からは、御蔵島、神津島から伊豆大島までの各島、富士山まで遠望できるほどの好天であった。中腹では、八丁平カルデラ形成前から近年まで、三宅島のおよそ 2000 年間の噴火史を示すテフラ層や溶岩流を、山麓では 1983 年噴火をはじめとする歴史時代の噴火に伴ったテフラや溶岩流・割れ目火口群を観察した。昼食を取った伊豆岬では、斜長石巨晶を含む約 1 万年より前の溶岩や、マール形成に伴う爆発角礫岩・火山豆石層などの古い時代の噴出物、そして最近の代表的なテフラまで、三宅島の玄武岩質火山活動を特徴づける堆積物を観察した。午後には、2000 年噴火以降の泥石流により埋もれた椎取神社や、マグマ水蒸気爆発に伴い形成された大路池や新瀧池を訪れたほか、1983 年噴火時に形成された新鼻の火砕丘断面を観察し、議論した。14 日は、1983 年溶岩流による阿古地区での被害状況を観察するために、旧阿古小・中学校跡などを訪れた。三宅島村役場阿古仮庁舎では、火山ガス観測システム (COMPUSS) に関する説明があり、また島の東側の坪田高濃度地区にある三池庁舎では脱硫装置や火山ガス警報システムについて担当者から説明があった。三池庁舎や空港などのインフラを泥石流から守るために建設された金曾ダムと周辺の植生の様子についても観察した。三宅島の卓越風の風下に当たる坪田地区では火山ガスの影響が強く、植物の枯死に伴う土壌の保水力や強度の低下がとくに著しいために、二次的に泥石流が発生しやすい状況が続いているとのことである。その後一行は阿古で昼食をとり三宅島をあとにした。14 日の午前中に一時雨がばらついたものの、巡検は概ね予定通りに進められた。参加者は、2000 年噴火から 9 年が経った三宅島の現在と、今もなお続く火山ガスや泥石流による災害の実態、また、割れ目噴火やマグマ水蒸



写真 5. 野外討論会 B コースの参加者集合写真 (三宅島阿古の 1983 年溶岩流上にて)

気爆発など三宅島の過去の噴火活動の痕跡を見て回ることができ、内容的には盛りだくさんの巡検であった (写真 5)。

4. 「火山学者と火山を作ろう in 箱根・小田原」

火山学会では例年、「Q&A 火山学者に直接聞いてみよう」などと題して、火山学を一般市民と交流しながらわかりやすく伝える取り組みを、科研費補助を得つつ実施してきた。本年は大会期間中の 10・11 日両日の午後、「火山学者と火山を作ろう in 箱根・小田原」と題し、食材や廃物を利用した「ミニ火山」を、火山学者と抽選によって選ばれた一般市民とがチームを作って作成しながら火山のでき方や不思議について議論を深める催しを行った。1 日目は林信太郎会員による「キッチン火山実験」(写真 6)、2 日目は笠間友博会員による廃食用油と砂を使った「ワイルド火山実験」を実施した。実験には「火山学者」として、宇井忠英、藤縄明彦、中谷咲子、関口悠子、石峯康浩、長岡信治、永尾隆志、福島大輔会員および日本科学未来館の岡山悠子科学コミュニケーターの 9 人、一般からは 1 日目が 27 名、2 日目が 25 名の参加があった。見学者は 1 日目が 18 名、見学者が 14 名であった。

今回の参加者・見学者数は例年の催しに比べると多い方とはいえないが、内容的には非常に濃密で、一般参加者には強い印象を与えたほか、「火山学者」にも地元で行うアウトリーチ活動の大きな参考になったものと見られ、大成功と言って良いと思われる。なお、この活動の効果については各テーブルにおかれたボイスレコーダーの録音や、参加者へのアンケートを元に、林信太郎会員による教育的な解析調査も実施される予定であり、火山学会のアウトリーチ活動がますます本格的な新しい次元に突入しつつあることが実感された。ちなみに、林・笠間両会員の尽力により今回もオールカラーのすばらしいテキストが用意された。これについては火山学会ホー



写真 6. ココア実験を見守る参加者



写真 7. 気持ちの良い昼食会場となった屋外テラス

ムページから PDF がダウンロードできるので、広くご利用いただきたい。

5. 公共施設での秋季大会開催について

最後に、普段秋季大会のホストとなる大学と今回のような公共施設での開催とで異なる側面について参考までに記しておきたい。今回は、県立の博物館という公共施設で3連休というかき入れ時に開催される学会となった。博物館の周辺には飲食店が少なく、館内のレストランもキャパシティが大きくないため、昼食時には大変な混乱になることが予想された。このため、今回の大会では昼休みを12時45分頃と遅めの時間からとするようなプログラムにしたほか、10・11日に関しては事前にお弁当のネット予約を受け、当日販売した。お弁当の受注数は10日が84件、11日が88件であった。また、お弁当を食べることの出来るスペースが十分に無いため、3階テラスにテーブルセットを配置した。ここは普段、博物館を見学する児童・園児が床にビニールシートを広げてお弁当を食べる場所であるが、10・11日は晴天に恵まれたこともあって、おしゃれなカフェのような雰囲気となった(写真7)。テラスのテーブルセットは80人分用意した。

祝休日の博物館での開催は、普段目にするものがない火山学会の活動を一般来館者に見ていただく機会となった。一方で、普段上映しているハイビジョン番組やクイズ映像が中止となり、それを楽しみに来館した子供達に現地実行委員や火山学会事務局がお詫びするという場面が多々見られた。加えて、普段の閉館時間(16:30)に合わせて警備や電気系統のプログラムが組まれているところ、より遅くまで続くポスター発表や講演会に対して本大会の開催のために、博物館事務担当や警備担当の皆様にはさまざまな作業と配慮をしていただいた。また、県博・温地研には火山と関係のない職員も多数在籍してい

るが、会場設営では一体となって献身的に働いていただいた。このため、大戦力である学生がいる大学では考えられないハンディを克服し、無事、成功裏に大会を終えることが出来た。改めて、裏方となってご尽力いただいた事務職員、学芸員、研究員の皆様に御礼申し上げたい。なお、公開講座「火山学者と火山を作ろう in 箱根・小田原」は、文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表(B)」(課題番号2152013)の助成を受けたものである。

6. 実施体制

今回の現地実行委員会の体制は以下の通りであった。

実行委員長	平田 大二 (神奈川県立生命の星・地球博物館)
事務局長	萬年 一剛 (神奈川県温泉地学研究所)
会計	代田 寧 (神奈川県温泉地学研究所)
広報	杉原 英和 (神奈川県温泉地学研究所*)
庶務	棚田 俊收 (神奈川県温泉地学研究所)
会場設計・設営	山下 浩之 (神奈川県立生命の星・地球博物館*)
火山実験	笠間 友博 (神奈川県立生命の星・地球博物館)
	小田原 啓 (神奈川県温泉地学研究所*)
調達	行竹 洋平 (神奈川県温泉地学研究所)
理事(大会担当)	松島 健

(*非会員)

(文責: 萬年一剛・中村洋一・前野 深・松島 健)

○会員消息

●新入会員(2009年5月27日～2009年11月20日まで)

氏名	所属	自宅	専門分野
小豆畑 逸郎 あずはた いつお AZUHATA Itsuo	京都大学大学院理学研究科 606-8502 京都市左京区北白川追分町 TEL 075-753-9422 FAX	Email a-itsuo@kyoto.mbox.media.kyoto-u.ac.jp TEL FAX	
天野 恵佑 あまの けいすけ AMANO Keisuke	富士常葉大学環境防災研究科 TEL FAX	Email f097101@fuji-tokoha-u.ac.jp TEL FAX	火山地質学
石川 徹 いしかわ とおる ISHIKAWA Toru	神戸大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻 657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 TEL FAX	Email 061s451s@stu.kobe-u.ac.jp 657-0016 兵庫県神戸市灘区篠原台6-28 絨心館322 TEL 078-882-4518 FAX	火山地質学
石川 実 いしかわ みのる ISHIKAWA Minoru	検査開発株式会社本社付 319-1112 茨城県那珂郡東海村村松3129-37 TEL FAX	Email mino-ishikawa@meth.biglobe.ne.jp 319-1118 茨城県那珂郡東海村舟石川駅東2-2-1 TEL 029-284-0670 FAX	
市川 美弥 いちかわ みや Ichikawa Miya	日本大学大学院総合基礎科学研究科 地球情報数理科 東京都世田谷区桜上水3-25-40 TEL FAX	Email olivella-japonica@yahoo.co.jp 156-0044 東京都世田谷区赤堤5-38-12 メゾンK105号室 TEL 080-5174-1511 FAX	
井上 剛 いのうえ つよし Inoue Tsuyoshi	山形大学大学院理工学研究科地球環境学専攻 990-8560 山形県山形市小川町1丁目4番地12号 TEL 023-628-4006 FAX	Email s08e503m@st.yamagata-u.ac.jp TEL FAX	火山岩石学
今泉 光智哲 いまいずみ みちあき Imazumi Michiaki	島根大学大学院総合理工学研究科地球資源環境学専攻 690-8504 島根県松江市西川津町1060 TEL 0852-32-6485 FAX 0852-32-6469	Email s089201@matsu.shimane-u.ac.jp 690-0825 島根県松江市学園2丁目18-29 グリーンコート407号 TEL 090-6079-4272 FAX	自然災害学
潮田 雅司 うしおだ まさし Ushioda Masashi	東京工業大学理工学研究科地球惑星科学専攻 152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 石川台2号館 TEL 03-5734-2338 FAX 03-5734-3538	Email ushioda.m.ab@m.titech.ac.jp TEL FAX	実験岩石学
梅津 茜 うめつ あかね UMETSU Akane	北海道大学大学院環境科学院環境起学専攻 060-0810 札幌市北区北10条西5丁目 TEL 011-716-2111 FAX	Email doficersairyou@ees.hokudai.ac.jp TEL FAX	地球科学
遠藤 大介 えんどう だいすけ ENDO Daisuke	筑波大学大学院生命環境科学研究科 地球進化科学 305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 自然系学系棟 TEL 029-853-4320 FAX	Email yaraka@geol.tsukuba.ac.jp 305-0821 茨城県つくば市春日4-18-4 相場マンション104号室 TEL 080-3633-7707 FAX	理学
大鹿 淳也 おおしか じゅんや OSHIKA Junya	筑波大学大学院生命環境科学研究科 305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 自然系学系棟 TEL 029-853-2917 FAX	Email junyabigdeer@gmail.com TEL FAX	火砕流、ア ルカリ岩
小栗 尚樹 おぐり なおき OGURI Naoki	東北大学大学院理学研究科地学専攻 982-0834 仙台市青葉区川内41番地 TEL 022-795-7552 FAX	Email ogurin@ceas.tohoku.ac.jp 982-0843 仙台市太白区青山1丁目15-31 シャトレーI青山103号 TEL 080-5080-9389 FAX	火山科学
攪上 勇介 かかあげ ゆうすけ Kakuage Yusuke	東京工業大学大学院理工学研究科化学専攻 TEL FAX	Email ykakuage@f5.dion.ne.jp 344-0062 埼玉県春日部市相壁東5-10-6 TEL 090-9378-9838 FAX	
川口 亮平 かわぐち りょうへい Kawaguchi Ryohei	東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻 固体地球 980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 TEL 022-795-6522 FAX 022-795-6783	Email kawaguchi@zisin.geophys.tohoku.ac.jp 980-0865 宮城県仙台市青葉区川内亀岡町70 アーバンシティー川内105 TEL 022-352-5275 FAX	地球物理学
吉瀬 毅 きちせ つよし KICHISE Tsuyoshi	東北大学大学院理学研究科 980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 TEL FAX	Email kichiset@m.tains.tohoku.ac.jp 980-0011 仙台市青葉区上杉6丁目3-2 東北大学松風寮 TEL 022-275-1221 FAX	
栗山 将幸 くりやま まさゆき KURIYAMA Masayuki	秋田大学教育文化学部 010-0852 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL FAX	Email s1506418@wm.akita-u.ac.jp TEL FAX	火山

氏名	所属	自宅	専門分野
佐藤 真樹 さとう まさき Sato Masaki	富山大学理学部地球科学科 930-8555 富山県富山市五福3190番地 TEL 076-445-6011 FAX	Email yaraka@geol.tsukuba.ac.jp 939-3553 富山県富山市水橋の場195 TEL 076-478-2931 FAX	
関口 悠子 せきぐち ゆうこ SEKIGUCHI Yuko	熊本大学大学院自然科学研究科理学専攻 860-8555 熊本県熊本市黒髪2丁目39-1 TEL FAX	Email 09849007@st.kumamoto-u.ac.jp TEL FAX	岩石学
武田 研太郎 たけだ けんたろう TAKEDA Kentarou	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻 060-0810 北海道札幌市北区北10条西8丁目 TEL 011-716-2111 FAX	Email TEL FAX	
田中 俊行 たなか としゆき TANAKA Toshiyuki	(財)地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所 509-6132 岐阜県瑞浪市明世町山野内1-63 TEL 0572-67-3105 FAX	Email tanaka@tries.jp TEL FAX	
田村 智弥 たむら ともひさ TAMURA Tomohisa	熊本大学大学院自然科学研究科 860-0862 熊本市黒髪2丁目39番1号 TEL 096-344-2111 FAX	Email TEL FAX	地球環境科学
土屋 遼平 つちや りょうへい Tsuchiya Ryouhei	北海道大学大学院理学研究院付属地震火山研究観測七 060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 TEL FAX	Email tsuchiya-1985@mail.sci.hokudai.ac.jp 001-0810 札幌市北区北14条西3丁目1-7 グラ-ナ北大前101号 TEL 090-9303-0017 FAX	
弦巻 賢介 つるまき けんすけ TSURUMAKI Kensuke	明治大学 大学院 101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL 03-3296-4442 FAX 03-3296-4424	Email tsurumeister@gmail.com 135-0016 東京都江東区東陽5-9-10-4A TEL 03-5634-6408 FAX 03-5634-6408	
長澤 健一 ながさわ けんいち Nagasawa Kenichi	大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻 560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-1 TEL 06-6850-5803 FAX 06-6850-5480	Email nagasawa@astroboy.ess.sci.osaka-u.ac.jp TEL FAX	惑星科学
永島 達也 ながしま たつや NAGASHIMA Tatsuya	信州大学大学院地球生物圏科学 390-8621 長野県松本市旭3-1-1 TEL 0263-37-3142 FAX 0263-37-2438	Email s09a410@shin 390-0312 長野県松本市岡田松岡138-1 コーポホワイトビル107号 TEL 090-7011-5547 FAX	火山地質
野仲 真司 のなか しんじ NONAKA Shinji	首都大学東京大学院都市環境科学研究科 地理環境学科 192-0364 東京都八王子市南大沢1-1 TEL 042-677-2588 FAX	Email nonaka-shinji@ed.tmu.ac.jp TEL FAX	
馬場 久紀 ばば ひさのり BABA Hisanori	東海大学 海洋学部海洋資源学科 424-8610 静岡県清水区折戸3-20-1 TEL 054-334-0411 FAX 054-334-9840	Email hbaba@scc.u-tokai.ac.jp 410-2411 伊豆市熊坂1257-80 TEL 0558-72-9912 FAX	地震学・地球物理学
原田 昌武 はらだ まさたけ HARADA Masatake	神奈川県温泉地学研究所研究部 250-0031 神奈川県小田原市入生田586 TEL 0465-23-3588 FAX 0465-23-3589	Email harada@onken.odawara.kanagawa.jp TEL FAX	地殻変動
廣谷 志穂 ひろたに しほ Shiho HIROTANI	独立行政法人 産業技術総合研究所地質情報研究部門 305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7 TEL 029-861-3599 FAX 029-856-8725	Email shiho-hirovani@aist.go.jp 305-8567 つくば市小野川15-14 イーストビレッジ1-204 TEL 090-2987-6305 FAX	火山岩石学
藤岡 拓真 ふじおか たくま FUJIOKA Takuma	東北大学大学院理学研究科地学専攻地球惑星物質科学 980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻宇青葉6-3 TEL 022-795-6687 FAX	Email fujiokat@m.tains.tohoku.ac.jp TEL FAX	
藤原 誠 ふじはら まこと FUJIHARA Makoto	神戸大学大学院自然科学研究科地球惑星科学専攻 657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 TEL 078-803-0495 FAX 078-803-0722	Email fujihara@kobe-u.ac.jp TEL FAX	火山地質
本多 亮 ほんだ りょう HONDA Ryou	神奈川県温泉地学研究所研究部 250-0031 神奈川県小田原市入生田586 TEL 0465-23-3588 FAX	Email TEL FAX	地震学
宮 英之 みや ひでゆき MIYA Hideyuki	神戸大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻 657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1 TEL FAX	Email 086s419s@stu.kobe-u.ac.jp 657-0024 兵庫県神戸市灘区楠丘町3丁目7-5 ヒルズヴェア六甲101 TEL FAX	火山地質学

氏名	所属	自宅	専門分野
本山 典明 もとやま のりあき MOTOYAMA Noriaki	佐賀大学大学院教育学研究科 840-8502 佐賀市本庄町1番地 TEL 0952-28-8164 FAX	Email 09312302@cc.saga-u.ac.jp 849-1116 佐賀県杵島郡白石町大字横手1484 TEL 0952-84-4414 FAX	岩石学
行竹 洋平 ゆくたけ ようへい YUKUTAKE Yohei	神奈川県温泉地学研究所研究部 250-0031 小田原市入生田586 TEL 0465-23-3588 FAX 0465-23-3589	Email yukutake@onken.odawara.kanagawa.jp TEL FAX	
吉田 修二 よしだ しゅうじ YOSHIDA Shuji	千葉大学理学部地球科学科 263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 TEL 043-290-3711 FAX 043-290-2859	Email shuji@faculty.chiba-u.jp TEL FAX	堆積学
吉村 俊平 よしむら しゅんぺい YOSHIMURA Shumpei	東北大学大学院理学研究科地学専攻 980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 TEL 022-795-6687 FAX 022-795-6687	Email shumpyos@m.tains.tohoku.ac.jp TEL FAX	火山学・実験地球化学

●所属先・連絡先等の変更(2009年5月17日～2009年10月10日まで)

氏名	所属	自宅	専門分野
池田 滋 いけだ しげる IKEDA Shigeru	福岡管区気象台技術部地震火山課 810- 福岡県福岡市中央区大濠1丁目2-36	Email	学会会員
	TEL FAX TEL FAX		
池端 慶 いけはた けい IKEHATA Kei	九州大学大学院理学研究院 附属地震火山観測研究センター 855-0843 長崎県島原市新山2-5643-29	Email ikkei@sevo.kyushu-u.ac.jp	岩石学 学会会員
	TEL 0957-62-6621 FAX0957-63-0225 TEL FAX		
伊藤 英之 いとう ひでゆき ITO Hideyuki	岩手県立大学総合政策学部 020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52	Email h-itoh@iwate-pu.ac.jp	火山地質・火山 維持会員
	TEL 019-694-2722 FAX019-694-2722 TEL FAX		
上田 義浩 うえだ よしひろ UEDA Yoshihiro	気象庁地震火山部火山課 100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4	Email yueda@met.kishou.go.jp	火山観測 学会会員
	TEL 03-3212-8341 (内 FAX03-3212-3648 TEL FAX		
及川 光弘 おいかわ みつひろ OIKAWA Mitsuhiro	海上保安庁 海洋情報部技術・国際課 海洋研究室 104-0045 東京都中央区築地5-3-1	Email oikawa-z4tbx@kaiho.mlit.go.jp	火山化学 維持会員
	TEL 03-3541-4387(内線: FAX03-3541-3870 TEL FAX		
荻津 達 おぎつ いたる OGITSU Itaru	産業技術総合研究所地質情報研究部門 火山活動研究グループ 305-8567 つくば市東1-1-1 産総研第7事業所	Email itaru-ogitsu@aist.go.jp	火山岩岩石学 学会会員
	TEL FAX TEL FAX		
興津 博文 おきつ ひろふみ OKITSU Hirofumi	島田市立川根中学校 428-0103 静岡県島田市市川根町身代3340	Email oshienoniwa-okitsu@r6.dion.ne.jp	維持会員
	TEL FAX TEL FAX		
鬼澤 真也 おにざわ しんや ONIZAWA Shin'ya	気象研究所 地震火山研究部 第三研究室 305-0052 茨城県つくば市長峰1-1	Email sonizawa@mri-jma.go.jp	火山物理学 学会会員
	TEL 029-852-9315 FAX029-851-3730 TEL FAX		
小野 秀史 おの ひでふみ ONO Hidefumi	(株)エイト日本技術開発広島支店 ジオ・エンジニアリング室 732-0055 広島市東区東蟹屋町15-3	Email e0041027@8con.co.jp	火山岩岩石学 学会会員
	TEL FAX TEL FAX		
加藤 幸司 かとう こうじ KATO Koji	鹿児島地方気象台観測予報課 890-0068 鹿児島市東郡元町4-1	Email koji-kato@met.kishou.go.jp	地震学 学会会員
	TEL FAX TEL FAX		
北川 淳一 きたがわ じゅんいち KITAGAWA Jun-ichi	日本工営株式会社新潟支店長野事務所 380-0824 長野県長野市南石堂町1282-16 三井生命長野ビル4F	Email a5673@n-koei.co.jp 381-2241 長野県長野市青木島町青木島乙811-5 ルーガル・リンド青木島201号	火山地質学 学会会員
	TEL 026-226-8092 FAX026-226-2162 TEL FAX		
小林 知勝 こばやし ともかつ KOBAYASHI Tomokadu	国土交通省 国土地理院地理地殻活動研究センター 地殻変動研 305-0811 茨城県つくば市北郷1番	Email tkoba@gsi.go.jp	火山物理学 学会会員
	TEL 029-864-6156 FAX TEL FAX		
坂井 孝行 さかい たかゆき SAKAI Takayuki	気象庁 地震火山部 火山課 100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4	Email tsakai@met.kishou.go.jp 270-0121 千葉県流山市西初石5-15-2 D-201	火山物理学 学会会員
	TEL 03-3212-8341 (内線 FAX03-3212-3648 TEL 04-7150-7295 FAX		
佐久間 澄夫 さくま すみお SAKUMA Sumio	地熱エンジニアリング(株) 020-0151 岩手県岩手郡滝沢村大釜字大清水356-6	Email sakuma@geothermal.co.jp	ボーリング 学会会員
	TEL 019-691-9300 FAX019-691-9301 TEL FAX		
曾根原 崇文 そねはら たかふみ SONEHARA Takafumi	株式会社蒜山地質年代学研究所 神戸支店 652-0813 神戸市兵庫区兵庫町1丁目3-28	Email sonehara@geohiruzen.co.jp	地質学 学会会員
	TEL 078-682-7793 FAX078-682-7794 TEL FAX		
高木 朗充 たかぎ あきみち TAKAGI Akimichi	文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 地震火山専門官 100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目2番2号	Email atakagi@mext.go.jp	火山物理 維持会員
	TEL 03-5253-4111(内線 FAX03-6734-4139 TEL FAX		

氏名	所属	自宅	専門分野
田村 淳 たむら じゅん TAMURA Jun	岡山大学病院 700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1	Email tamujun04203@mail.goo.ne.jp	火山地質 一般会員
長井 雅史 ながい まさし NAGAI Masashi	独立行政法人防災科学技術研究所火山防災研究所 305- 茨城県つくば市天王台3-1	Email mnagai@bosai.go.jp	火山岩岩石学 学会会員
中坊 真 なかいぼ まこと NAKABOH Makoto	特定非営利活動法人九州バイオマスマフォーラム 869-2232 阿蘇市赤水大堀695-10	Email	火山物理学 学会会員
西村 光史 にしむら こうし NISHIMURA Koushi	独立行政法人産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門 鉱 305-8567 茨城県つくば市東1丁目1-1 中央第7	Email k-nishimura@aist.go.jp	地球惑星科学 学会会員
長谷川 健 はせがわ たけし HASEGAWA Takeshi	茨城大学理学部 310-8512 茨城県水戸市文京2-2-1	Email hasegawt@mx.ibaraki.ac.jp	火山岩・岩石学 学会会員
浜田 盛久 はまだ もりひさ HAMADA Morihisa	東京工業大学 大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻 152-8551 東京都目黒区大岡山2-12-1 12-2	Email hamada@geo.titech.ac.jp	実験岩石学 維持会員
平井 寿敏 ひらい ひさとし HIRAI Hisatoshi	産業技術総合研究所 生産計測技術研究センター 841-0052 佐賀県鳥栖市宿町807-1 産総研九州センター	Email	火成岩岩石学・ 学会会員
道脇 正則 みちわき まさのり MICHIWAKI Masanori	北海道総務部行政改革局行政改革課行革グループ 060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目	Email michiwaki.m@nifty.com	火山学 学会会員
宮縁 育夫 みやぶち やすお MIYABUCHI Yasuo	熊本大学教育学部 860-8555 熊本市黒髪2-40-1	Email miyabuchi@earth.email.ne.jp	地形学・火山地 維持会員
宮村 淳一 みやむら じゅんいち MIYAMURA Jun'ichi	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター 060-0810 地震火山地域防災情報支援室 札幌市北区北10条西8丁目	Email junmiya@mail.sci.hokudai.ac.jp	地震学 学会会員
山崎 明 やまざき あきら YAMAZAKI Akira	気象庁地磁気観測所技術課 315-0116 茨城県石岡市柿岡595	Email ymzk@kakioka-jma.go.jp	地球震磁気学 学会会員
山崎 太郎 やまざき たろう Yamasaki Taro	毎日新聞西部本社編集制作センター 802-0972 北九州市小倉南区守恒3丁目1-11-102	Email taro.yamasaki@mbx.mainichi.co.jp	災害報道 一般会員
横尾 亮彦 よこお あきひこ YOKOO Akihiko	東北大学大学院理学研究科 980-8578 仙台市青葉区荒巻青葉6-3	Email yokoo@zisin.gp.tohoku.ac.jp	火山学 学会会員
若月 聡 わかつき さとし WAKATSUKI Satoshi	千葉大学「未来の科学者養成講座」支援室 263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33	Email satoshi-wakatsuki@office.chiba-u.jp	岩石学・ 学会会員
渡辺 一徳 わたなべ かずのり WATANABE Kazunori	阿蘇火山博物館 869-2232 阿蘇市赤水1930-1	Email wittoku@asomuse.jp	地質学 維持会員